

「赤い子」を意味する名前を持つ赤童子は、神道の神で、月の神の息子である。この木造彫刻の状態は完全で、日本で唯一の赤童子像である。この彫像は比較的古く、鎌倉時代後期（1185-1333）のものだ。檜の寄木造りで、その玉目には水晶が嵌められている。日本の伝統的神道の神にもかかわらず、この彫像は中国宋代（960-1279）様式の影響を受けているようだ。特に、上着は肩で曲線を描き、襟は折り返されている。その他、上腹部に巻いてある帯などは唐様式（610-907）に類似する。彫像はその当時は非常に珍しかった銅製の宝冠をつけている。